

水俣病対策

政治による早期救済を求める被害者の声に応じて、与党水俣病問題に関するプロジェクトチームから、10月末に新たな救済策の具体的な考え方が示されました。県としては、できるだけ多くの被害者にご理解いただける救済策が一刻も早く実現されるよう精いっぱい取り組んでいます。

川辺川ダムをめぐる取り組み

○昨年に引き続き、「球磨川水系河川整備基本方針(案)」が国の検討小委員会で審議され、県は、ダムをめぐる県民の意見の一致が見られないという実情を踏まえて意見を述べ、県民への説明責任を果たすように国に求めました。基本方針は、本年5月に決定され、国は県民への報告会を行いました。

○国営川辺川土地改良事業については、県も地元市町村の合意に向け調整を続けてきましたが、市町村の意見が一致せず、国の来年度予算の確保は厳しい状況です。県としては、事業主体である国の対応や地元の意向を見極めつつ、農家中心という大原則を念頭に、取り組んでいきます。

「熊本のこの1年」こんな事がありました

- 1月 ○九州森林管理局と「持続可能な森林経営の推進に関する協定」を締結
- 2月 ○「第4回ユニバーサルデザイン(UD)全国大会」を開催するとともに、「くまもと安心移動ナビ・プロジェクト」の実証実験を実施
○国指定史跡「鞠智(きくち)城跡」の国営公園化に向け、「国営鞠智城歴史公園設置促進期成会」を発足
- 3月 ○平成18年度の企業誘致件数が過去最高の40件を達成
○新ブランド豚肉「ひごさかえ肥皇」の名称が決定し、本格販売開始
- 4月 ○熊本空港の愛称として、「阿蘇くまもと空港」の使用を開始
○県議会議員一般選挙実施
- 5月 ○「こうのとりのゆりかご」の運用開始。県において、課題の検証会議を設置(11月)
○くまもとEco(エコ)燃料拡大推進研究会発足
- 6月 ○大韓民国忠清南道 李完九(イ・ワンク)知事が初来熊(10月に県立装飾古墳館と韓国忠清南道百済歴史文化館との姉妹館提携調印)
- 7月 ○梅雨前線豪雨や台風による被害発生
○全国知事会議および「名城所在地知事シンポジウム」を開催
○参議院議員通常選挙実施
- 8月 ○米国モンタナ州で、「熊本県・モンタナ州姉妹提携25周年記念式典」開催
○第1回食育推進くまもと県民大会開催
- 9月 ○松島有明道路開通
- 10月 ○高校教育の環境確保に向けた「県立高等学校再編整備等基本計画」を策定
○子ども輝き条例施行
○中国広西壮族自治区との友好提携25周年を記念し、訪問団を派遣
○ブラジル移民100周年を記念し、交流使節団76人が来熊
○九州横断自動車道延岡(のべおか)線「嘉島(かしま)～山都(やまと)間」工事着手
- 11月 ○第31回全国育樹祭開催
○熊本市と下益城郡富合町の両議会が合併関連議案を可決し、県知事に合併を申請。新「熊本市」の誕生は平成20年10月6日の予定
- 12月 ○この旅あっぱれ! くまもと観光キャンペーン「冬の巻」開始

戦略的なメタボリックシンドローム対策

「健康づくり県民会議」を九月に開催し、関係機関などが健康づくりに関する一団体一活動を実施。また、上益城郡嘉島町では、小学生の親子二十組を対象に、親子ドックやメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の予防、食事・運動に関する行動目標を立て、家族で楽しく、効果的に実践する取り組みを行っています。

【くまもと健康・長寿づくり】

障害のある方や難病の方の就職・就労を支援

県内二カ所の「障害者就業・生活支援センター」における就職相談などの取り組みの結果、昨年度、障害のある方の就職件数が、一センター当たり平均で七十件となり、都道府県別で全国一位に。四月には、有明・鹿本・菊池・阿蘇圏域を対象にした北部センター「がまだす」がオープンしました。また、難病であることを明かしての就職や就労継続が困難な難病患者の生活の安定のため、ハローワークなどで、より相談がしやすくなるよう、全国で初めて「難病者就労相談シート」を作成し、利用を始めました。

【障害者いきいき地域生活】

5 未来に続く県土づくり

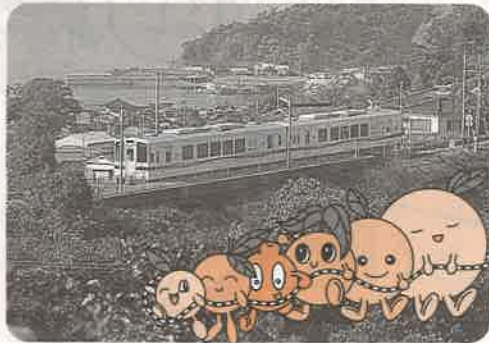
「KANSAI(関西)戦略」始動

九州新幹線の全線開業で、日帰り圏となる関西や中国地方の方に、阿蘇の大自然や清らかなおいしい水、豊富な温泉、豊かな伝統・文化など、熊本が持つ魅力をアピールし、来訪者や消費者に選ばれる「くまもとブランド」の確立などに取り組む「KANSAI戦略」が動き出しました。

【新幹線くまもと創り(全線開業を見据えた県土づくり)】

「肥薩おれんじ鉄道」熊本駅へ直通運転

肥薩おれんじ鉄道(株)とJR九州との協議が整い、七月に熊本駅への直通運転の覚書が取り交わされました。今後、平成二十年春からの土、日、祝日の朝夕一往復の運行に向け調整が進められることと



肥薩おれんじ鉄道マスコット「おれんじーず」

なり、実現すれば佐敷駅(葦北郡芦北町)～熊本駅間が約一時間で結ばれることとなります。

【地方交通ネットワークの整備】

空港リムジンバスの試験運行を実施

「熊本駅」と「阿蘇くまもと空港」を結ぶ空港リムジンバスの運行時間短縮に向けて、新ルートの試験運行を実施。また、JR「光の森駅」と「肥後大津駅」の各駅から、空港へのシャトルバスの試験運行も行うなど、阿蘇くまもと空港へのアクセス改善に向けた取り組みを進めています。

【熊本市圏の交通円滑化】

6 美しい熊本「環境立県」

「くまもとEco(エコ)燃料 拡大推進研究会」発足

バイオマス(植物や動物からつくられる資源)利活用の推進の一つとして、廃食用油などから製造でき、軽油の代替となるバイオディーゼル燃料の普及を図るため、産・学・行政のパートナーシップの下、五月に研究会を発足し、製造技術の習得や情報交換を行っています。

【バイオマスの有効活用】

くまもと環境祭の開催

NPO法人くまもと温暖化対策センター(二月、県地球温暖化防止活動推進センターに指定)などとの連携により、県民一人一人が地球温暖化防止を自分の問題として考え、主体的・具体的な行動を喚起するため、楽しみながら学び、考えることができる、参加体験型イベント「くまもと環境祭」を八月に開催しました。

豊かな有明海・八代海の再生

海や川の水質悪化の原因の一つである生活排水対策として、市町村と連携し、下水道や浄化槽などの整備を進めています。また、県民の皆さんの水環境保全への意識を高めるため、八月に海岸や河川の一斉清掃、十一月には天草市で「みんなが守ろう水環境の宝島」をテーマに講演や事例発表などの「県民大会」を開催しました。

【有明海・八代海水質保全のための生活排水処理の強化】

